

関係各位

平成27年度使用開始「教科用図書」の採択について(報告)
平成30年度使用開始「道徳教科用図書」の採択について(報告)

滋賀大学教育学部附属小学校

平成27年度使用開始「教科用図書」及び平成30年度道徳の採択結果とその理由について、ご報告いたします

教科 採択教科書	採 択 理 由
国語科 光村図書	<ul style="list-style-type: none"> 「活動の流れ」が示され、子どもが主体的に見直しを持って学習を進められるようになっている。 「言葉の準備運動」が示され、子どもが話し合って学習を進めやすいように工夫されている。 「たいせつ」で、学習した内容が簡潔にまとめられ、子ども自身が学習を振り返り、既習事項を整理しやすいように工夫されている。 「この本読もうで、扱っている教材文の特質に関連した書籍を多数紹介されていて、子どもの読書活動の充実にも活用しやすい。 「本は友達」では、図書室や利用、読書案内といった学習活動が設定されていて、低学年から本に親しめるように工夫されている。 「季節の言葉」で、四季折々の季節や季節の特徴を表す言葉を紹介し、日本語の豊かなことばの表現に触れることができるようになっている。 「コラム」で、日常生活における具体的な伝え合いの場面で考え合えるような内容が設定され、伝え合う方法について考えられるようになっている。 「手引き」学習では、目標の確認・読みの観点・言語活動の手順、目標の振り返りの各項目を整理して、見開き2ページでまとめられていて、言語活動を通してつたえたい力の定着を図れるようになっている。 記録、説明、報告、紹介など、様々な言語活動が適度に学年に配置されている。
書写 光村図書	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では、指で、鉛筆で文字をなぞるページを多く取り入れ、段階を追って正しい字形を身に付けることができるよう工夫されている。 6年生で、俳句や和歌、文字の誕生から現在までの流れを取りあげられ、伝統的な言語文化に親しめるように工夫されている。 全学年で、手紙やノート、書き方などの発展的な題材を取り扱い、書写の学習が日常生活や他教科の学習においても活用できるように工夫されている。 「見直し」で、学習の進め方が示され、子どもが主体的に学習を進められるように工夫されている。 「大切マーク」で、学習のポイントを解説し、要点を意識して学習できるようになっている。 学んだ内容を生かして作品づくりができるように工夫されている。
社会科 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題が分かりやすくなるような工夫を凝らしている。 滋賀県に関する内容が多く取り入れられている。 補充的・発展的内容が示されている。 「キーワード」やコンク体表記など分かりやすくされている。
地図 帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> 地図の使い方に関する内容を充実させ、使いやすくされている。 子どもの主体的な学習を大切にしたコーナーの工夫がされている。 現在問題となっている領土についても写真を用いて紹介されている。
算数科 大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> 2学年以上の巻頭に「算数の学び方」のノート例を載せたり、数直線の書き方が掲載したりすることで、表現方法の例を参考にノートに書けるよう児童を導いているところが、たくさん見受けられる。 指導者や子どもが、授業中の考え方の繰り上げに役立つように、1つの課題に対して〇〇さんの考えや〇〇さんの考えと複数掲載し、類似点を考えることで、教材の本質を理解できるようにしている。 3学年の見開きには、琵琶湖大橋の写真が掲載され、形の特徴に着目させるのに、滋賀県の身近な地域の建物などを写真を大きく取り上げて扱うことを通して、学習に興味関心をいかに内容を工夫している。 準備時数が多く、復習などに使えるようになっている。また、2年生以上の巻末に、補充問題「レットライ」が新設され、個に応じた家庭学習に役立つように工夫されている。 巻末になったが、以前よりやや軽いので、地域の広い本校の児童の登下校の荷物軽減になる。
理科 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入は、既習事項や生活経験と単元の学習に関する写真やイラストが大きく掲載されており、見直しを持って学習が進められるよう配慮されている。 巻末資料に観察や実験に使う道具の基礎的な操作方法や注意点が図解入りでまとめられ、教科書中の観察・実験の中では、巻末を参照するよう指示する添え書きがなされている。その都度確認して、正しく実験や観察ができるよう工夫されている。 すべての学年の巻末資料に「話し合いのしかた」が設けられ、教科書の随所に子どもたちに説明や話し合いを求める学習活動や課題が設定されている。 滋賀県の自然について多く取り上げられている。
生活科 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動や作品が写真やイラストで豊富に掲載されており、見本やヒントになるように工夫されている。交流方法についても、単元の終わりや具体的に例示されている。 「いちもんせいになつたら」として、スタートキリキラムを考慮した単元が設定されており、幼児教育から小学校への円滑な接続を図る指導の助けとなる。 「なんでもずかん」として、季節の植物や生き物などについて、写真付きで紹介されている。 「なんでもずかん」には、「はなしかた つたえかた」「しらべかた まとめたかた」「聞くまとめる つたえかた」など、交流や表現の仕方が紹介されており、活動や体験に必要な技能、能力を身に付けるために工夫されている。
音楽科 教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> 低・中・高学年の学習内容の重点や、全学年にわたって子どもたちが興味関心をもって取り組める活動が豊富に示されている。 2学年ごとの題材名が統一されているので、段階をおって学習内容を発展させることができる。 指導要領に示されている我が国の音楽についても、3年生から示されており、系統立てて設定されている。 音楽づくりについても、音遊び、旋律づくり、リズムアンサンブルなどを取り入れており、学年をおうごとに発展させることができる。 楽曲の情景や活動のイメージを表す写真やイラストが多数掲載されている。
図画工作科 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の過程がわかりやすく示され、発想や構想の手掛かりとなるイラストや文章の記載が工夫されている。 各題材に「学習のめあて」が記載され、その中で形や色などについて触れられており、子どもが自分で捉えている形、色、イメージに気づき、表現を工夫できるようになっている。 子どもの言葉をもとにした作品コメントが紹介され、言語活動をすときのヒントになっている。 一人ひとりが自分の考えを深め、他人の意見を受け入れ、新たな価値を見つけることができるように設定されている。
家庭科 開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> A～Dの内容の関連を図り、学習のつながりを意識した題材構成になっている。その中でも学期や学年の区切りなどの時期にA内容の題材を配列し、家庭生活の大切さや自分の成長を振り返ることができるように工夫されている。 基礎的な衣食住に関する実習例を多く取り上げ、段階的に知識や技能が身に付くように配列されている。特に「調理の基礎」や「生活に役立つ物の製作」では、「できたかな」や「ふり返ろう」により、活動ごとに基礎的な技能の習得について確認できるように工夫されている。 巻末の「資料」や「家庭科学習」で使われる用語索引があり、いつでも簡単に振り返ったり、確認したりすることができる。
保健 学研	<ul style="list-style-type: none"> 各単元のはじめのページに「ここで学ぶこと」として、学習課題がはっきり明示されているので、見直しをもって学習ができるようになっている。 イラストや写真が豊富で、一つ一つが大きく掲載されており、たいへんわかりやすい。 「かつよう」「もつと」「発展」といった欄が設けてあったり、学習した内容と他学年・他教科との関連について書かれてあったりするので、学習した内容を広げたり、深めたりする活動がたいへんイメージしやすい。
道徳 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> 写真やイラストが大きく掲載されており、児童が興味・関心を高めながら教材に向き合うことができるようになっている。 主な登場人物やあらすじが示されており、教材への見直しをもって理解を進めることができる。 いじめや情報モラルなど、社会的課題と対応した教材について、各学年複数配置されているため、じっくり考えることができる。 学びの足跡を残すための道徳ノートがあり、自分自身の成長の記録となり手元に残る。 道徳ノートに、友だちの考えを書き込むスペースが確保されており、様々な見方、考え方に気づくことができる。 ノートに保護者記入欄が設けてあり、道徳教育を通して、家庭と学校の連携を図ることができる。